

孔子のふるさとを訪ねて

楽しく、実り多き旅行会に参加でき、ありがとうございます。学院長をはじめ参加した皆さんと旅の初日から打ち解けた旅行ができ、しかも一般の観光ツアーと一味違う内容に心から感謝しています。

訪れた施設、風景が目に焼き付いています。どこまでも続く高速道路にその大地の広さを感じ、2,000 有余年前の城壁に古のロマンを感じたのは私一人ではなかったのではないのでしょうか。旅行の素晴らしさを堪能できました。

古いものに思いをはせ、その当時の生活を想像してみるのも、私にとって旅行の楽しみの一つです。城壁に守られた学問の都「曲阜」が孔子の故郷として大事にされ、守られている素晴らしさに感激をしました。旅人の心を癒してくれる古都の佇まいと周りの田園風景が、これからも変わらずに悠久の時を刻んでいってほしいと願っております。

あまり大きくはない地方都市に師範学校、師範大学と二つも設置されているのも、孔子の里ならではないかと一人で合点しております。

私は子供の名前を「論語」から付けました。何時かその論語の里に行ってみたいものだと思っておりましたが、30年以上たってやっとその夢が叶いました。孔子生誕の地、お墓、さらには孔子ゆかりの学校まで訪問でき大満足です。今年中国語を習おうと一念発起、孔子学院の門をくぐったことがこのような機会につながり、ラッキーでした。

学院長をはじめ参加者の皆さん、お世話になりました。お礼を申し上げます。

このように楽しい旅行会があれば、また参加したいと思っています。皆さんまた仲間に入れてください。

后会 有 期。 祝 大家 身体 健康 ！

大谷 惇

初めての中国旅行

川邊 裕美子

10月18日から7泊8日、期待と不安を胸に私の初めての中国旅行が始まりました。

曲阜の孔子廟では、古い歴史的建造物が建ち並び、孔子林では、孔子や一族のお墓が16万箇所も点在しており、改めて中国の歴史において孔子の存在の大きさを知りました。広大な土地に想像もつかない長い歴史が流れ、次の世代へと受け継がれ現在にいたっているのを目前にするととても感動しました。

小昊陵に行く途中は、小さな村の生活道路を歩き、遺跡内の建造物の修復工事を見ることができました。歴史的建造物の修復工事という、重々しい警戒色も気負いも感じさせないシンプルな足場と工事風景は、中国人の大らかさを感じさせてくれました。

また所々で様々な注意書きのような幕や看板を目にしましたが、文末の最後には、“～后 自 責”と書かれていました。日本語で言うと“自己責任”という意味になるのでしょうか・・・？そういった環境が中国人のたくましさや強さを育み、日本との文化の大きな違いを感じさせられました。

青島では、ドイツ統治下の影響を受け異国情緒溢れた街並みを見学し、美味しい食事を堪能することができました。

ドイツ総督官邸の側にある喫茶店では、アイスクリームを注文したのですが運ばれてくるまでに一時間近くかかりました。普段あまり冷たい物を食べることがない中国人との食文化の違いもそこで実感できました。

孔子学院本部では、緊張しながら行った中国語での自己紹介や、アジア地区担当の徐強先生から

「皆さんの中国語の勉強のために協力は惜しみません。」

という心強い言葉と思いがけない本のプレゼントは、これからの中国語の勉強の大きな励みになりました。

不安だった中国語の会話も、自分から思い切って声をかけたり道を尋ねたりして相手に伝わり理解してもらえた時は、とても感激しました。これからもこの気持ちを忘れずに中国語の勉強を頑張っていきたいと思います。

この旅行を通して、曲阜や済南のように古い歴史や建造物を大切に守り後世に伝えていく一面と、北京のように古い物を壊し新しい物を造り出す活気に満ちた一面と、またその北京で昔ながらの胡同での生活が今もなお続いていることなど、素朴で力強い中国を肌で感じることができました。

張先生はじめ皆様のおかげで楽しい有意義な時間を過ごすことができ、感謝しております。本当にありがとうございました。

<孔子のふるさとを訪ねる旅 >

主な観光場所

- 済南 「趵突泉」見学、黄河を見て曲阜に
曲阜 孔子廟、孔府、孔子林、大成殿、孔子関係の施設、師範学校等。 曲阜2泊
- 臨沂 殉馬坑 等
青島 ドイツの総督の家、教会、青島ビール工場、海岸散策、等。 青島2泊
北京 胡同観光、宋慶齡同志の故居、孔子学院本部訪問、オリンピック施設見学、王府井大街、等、 北京2泊

旅の感想

今回の旅はまだ行ったことの無い所なのでとても楽しみにしていました。
千歳から北京に行き1泊して早朝、飛行機で済南に行き「趵突泉」見学。
日曜の為かかなりの人出で、園内はお祭りのように京劇の衣装の人の踊りあり、食べ物のお店もあり、泉も綺麗だったけど人が多いのに少し驚きました。
バスで曲阜に行き孔子廟、孔府、孔子林などを見学。
孔子関係の施設は立派で大きく訪れる人も多くて、大成殿の前でお祈りする人は途切れず、中国での孔子に対する尊敬と敬愛の気持ちを感じました。
日本の門前町のような曲阜の街並み、立派な城壁もありホテルも2階建てで、落ち着いた日本の旅館の雰囲気を出しました。
普通のツアーでは珍しい曲阜の故城観光は、近くの農村の村でバスを降りて、人懐っこい農村の人たちの視線を感じながら歩きました。
門に色々な字「福」等が書いてある農家も見ました。
青島は綺麗な都市です。函館に似ています。
知り合いの中国人の奥さんが「退職したら青島に住みたい」と言った都市なので色々興味深く観察してきました。ドイツの租借地として開港した街なので欧風の町並みで、美しい砂浜があり、海鮮料理は美味しく日本人好みです。
私もホームシックにならずに暫く住めそうな都市でした。
北京の街は、報道されている大気汚染のスモッグを想像していたのですが、思ったより空気が綺麗で、道もあまり汚れていないし街路樹が多いので、街全体がゆったりした雰囲気があります。胡同は観光用的人力車で廻りました。外壁などが修復されていた為か、あまり古い建物の感じはなかったけど、迎えてくれた四合院の奥さんの笑顔が印象的でした。
北京のオリンピック施設はまだ中は開放されてなく陸橋までしか行けず、天安門広場も国際会議で周辺は通行禁止で行けなかったのはとても残念でしたが、再び訪れたい北京の観

光目標が出来ました。

行く度にホテルの中国語放送の言葉が、少しずつ耳の入るようになってきてずっとテレビをつけていました。買い物も1年前の西安旅行よりスムーズに出来ました。

ただ少し残念な事は、食事は全てレストランで食べましたが、立派なレストランでも、トイレは少なくて汚い。改善の余地のある中国観光のこれからの進歩を期待したいと思います。せっかくの美味しい料理も印象が悪くなり残念です。

今までの旅行では、全てのトイレがこれほど汚くなかったので、今回の旅を企画した旅行社、ガイドがその点をあまり考慮せずにレストランを選んだからかもしれません。

また来年も中国旅行に行き、名所観光、人との交流、等で毎年少しずつ進歩している言葉を交わして楽しんできたいと思います。

以上

観光・ガイド中国語 I 武田 清美

谷口 光太郎

去年広州の越秀公園で扇を買った。9月のはじめでもものすごく蒸し暑い日、回りの人たちはみんな扇子を手をしている。ふとそのとき扇売りのおじさんと目が合い彼の小さな店に入ると、たった数個（振り？）なのに、扇子が自慢げに飾られている。その風情になんとなくうれしくなり「広州好！」という詩が書かれた大き目の扇子を買った。今も太極剣の練習に大事に使っている。

さて中原を扇と見立てるならば、その要は武漢（江夏）といわれている。銅鑼の産地であるそうだ。ならば扇の縁が山東である。なんとも大きな扇であることか。扇子を買った広州はそれを持つ手だ、としたら、北京は風を受ける顔ということになるだろうか。

風を生み出す扇、それを操る手、享受する顔・・・山東、広州、北京。それぞれの働きが絶えず反転する、あるいは別物になることさえある可能性を持つ陰陽相済の世界、それが中国。

中国、とりあえずそれを無比の「言語宇宙」ととらえ自分の心になじませてゆきたい、できるだけ早く。

谷口 裕子

私はなぜか、黄河以北は乾燥したそれこそ“黄色い大地”でやせた農地というイメージをもっていました。それで恥ずかしいことに、なぜこの中原をめぐる争ってきたのだろうと不思議だったのですが、今回実際に目にして腑に落ちました。この豊かな黄河の堆積地の作物が北の文化を支え続けてきたのだと。

そういうわけで、今回の旅行で一番印象に残った風景は、山東省の広大で豊かな平原でした。どこまでも続く農地とそれを囲む植林され、大きく育った広葉樹が車窓から見えます。このあたりは二毛作が可能で、穫り入れの終わったとうもろこし畑やすでに秋蒔き小麦が緑色に芽吹いている畑が混在してモザイク模様を呈しています。農作業をしている人のかたわらには、放牧されているのか山羊が草を食べています。

所々ビニールハウスもあります。日本と違い、北側は厚い土壁にして保温効果を高めているそうです。ガイドさんがこのおかげで冬でもきゅうりが食べられますと楽しそうに説明してくれました。

また、このあたりでは湧き水も豊富だそうで、済南の趵突泉、青島ビールが使っている崂山など名水の地があります。特に済南では、この湧き水を街中に上水路を掘って提供していたそうで、その澄んでいることと云ったら、思わず飛び込みたくなるような美しさでした。水に関しては、上流と下流、乾燥帯やダムによる水量の配分や水質汚染など問題も色々あろうけれど、少なくとも山東省の豊かさにまたも圧倒されました。

やはり、百聞不如一見！他にもたくさん“中国”を肌で感じた旅行となりました。孔子学院の皆様、そして張学院長、貴重な機会を与えてくださったことに感謝いたします。

『孔子のふるさとを訪ねる』旅をして

こんかいのたびは、中国への想いを改めて確認する旅となりました。五千年の歴史を有する中国という国への憧れと、そこに住む人々へのさまざまな想い、同じアジア人だという親近感を感じつつ、人と人とのふれあいに想いを残して帰って来た旅でした。曲譜の歴史に満ちた町並み、青島の町のたたずまい、北京のおぼろな太陽と澄みきった青空などは実に印象的でした。

体調は万全ではなく、何かと旅行メンバーの皆さんにお世話になりながらの旅でもありました。

次の旅は、体調を整え、中国語のレベルを少しでも向上させて『同時代に過ごした』同世代の中国の人達と白酒を飲みながら話が出来ると旅にしたいと思います。その旅では何が話題になるのか、今から楽しみです。

2008. 11. 18 畑山 充

「孔子のふるさとを訪ねて」

古川 八重子

儒家思想の創始者孔子は曲阜で生まれた。「己の欲せざることは人に施すことなかれ」などと、愛をもとに「仁」の思想を豊かにした。金持ちも貧乏人も平等に教え、弟子の数も三千人と言う。孔子廟を弟子たちが建設し、それを守るための城壁は六メートルの高さと六キロメートルの長さにも及ぶ、巨大なものであった。墓碑を北京から十五年もかけて運び、文字を彫り込み、王しか使ってはいけない黄色でその碑文を塗って有ったのも、孔子に対する弟子たちの尊敬の想いが込められている。

旅行六日目は北京に戻り、二百五十円で人力三輪車に分乗し、狭い小路の「胡同」を見に行った。中庭に面して四室あり、両親、兄夫婦、自分達、物置と台所になっていた。夏・冬とも快適に生活できるようだ。子孫繁栄のためにザクロの木とナツメの木が植えてあった。また良いが入るようと、大きな水槽を置き、その中に、大きな真鯉と緋鯉を飼っていた。オリンピックの為に「胡同」を壊してしまい、保護地区にしか無いのは残念な事だ。その後また人力三輪車に分乗し、中華人民共和国名誉主席・宋慶齡の広大な住居を見学した。宋慶齡が孫文と結婚したときの契約書が展示されてあったのには驚いた。

旅行七日目孔子学院本部訪問。三百名の英国中学生が見学に来ていた。学長が連絡していたので、アジア担当の男性チョウ氏が出迎えて下さり、中学生の見学より先に案内してくれた。新しくとても立派な校舎で、楽器などの展示もあり、琴にも触った。コンピューターに京劇の女形の画像があり、顔が自分の顔と置き変わるのも、西暦の年号を入れると生まれた干支の絵が出てマウスで切絵ができるのも面白かった。図書室には新書など展示してあり、欲しい本を一冊下さるという事だから私は、大きな厚い辞書の名前を書いた。薄い本二冊で三千元だったから、相当高価なものになるだろう。その後、一室で自己紹介。みな中国語で何か話していた。私は日本語でカンフーを習っている事を話した。

孔子学院本部を辞しバスでオリンピック施設の方へ移動した。開閉会式場になった「鳥の巣」とその側に有るメディアセンターを車中から見た。メディアセンターの最上階はまさに、龍の頭の形をしていた。紫禁城近くで三人掛の自動車一台に全員が四元出して乗り込み、紫禁城への門前に着いた。まだ降りないうちに乗り込んで来る中国の人たちの凄いこと。二つのグループに分かれて天安門へと目指したけれど、アジア・ヨーロッパサミットのために行けなくて、百貨店で時を過ごし、屋台なども見た。蛇、ひとで、虫、さなぎなど串刺して売っていた。一日二万四千歩、歩いた日もあった。七泊八日歩けたのは、カンフーのお陰。畑山ご夫妻とお近付きになれた事。北京空港で御手洗に寄って皆からはぐれてしまい、ご迷惑を掛けた事。でも、また行きたい。残金の十一元が待っている。今回分かった言葉、シーショウジェーン。クーチュアンパージョンズだった。謝謝。

以上

(No. 1)